

明日への飛躍を



文学部長
松尾 正人
まつお まさひと

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学生としての新たな緊張そして高等学校と異なる解放感の中で、今日の皆さんの胸には、さまざまな思いが交叉しているのかもしれない。

大学生時代は、人生の最も輝かしい時代であり、将来に向けた貴重な糧を得る期間です。可能性に富んだ、明日への飛躍につながる数年間と、いってよいでしょう。

中央大学の前身の英吉利法律学校の初代校長となった増島六一郎も、20歳前後にその後の人生の原点がありました。彦根藩の下級士族に生れ

た増島は、東京での勉学をこころざし、親友と二人で家を飛び出して

ます。義兄に連れ戻されますが、向学の念はやみません。翌年にやっと許可を得て上京しました。開成学校に入り、東京大学で代言人（弁護士）になることを志望します。そして卒業後に三菱の援助を得て英国に留学。インズオブコートで最高のバリスター（法廷弁護士）の資格を獲得しています。

また二代目の校長になる菊池武夫も、奨学金が思うように得られず、東京での勉学に苦心しています。奨学金の手続に関して郷里の岩手県か

ら叱正され、学業を断念することまで思い詰めています。それでも苦学を続け、ボストン大学に留学しました。帰国後、二人はともに英吉利法律学校の創設者となります。増島や菊池が東京での勉学を断念していたら、海外に留学する機会がなかったら、二人の人生はどのようなふうか。増島や菊池たち18人の若い法律家が集まって明治18年に創設した英吉利法律学校も、ずいぶん違ったものになっていたでしょう。その後

の東京法学院、そして中央大学もなかったかもしれません。大学は、いうまでもなく幅広い教養を身につけるとともに、専門的知見を培うところです。実社会と異なった場で、さまざまな知識を蓄え、自由に物事を考え、グローバルな

視野に立って模索することができ、また専門分野を研究することで、学問の重要性、面白さを知ることができます。中央大学の文学部は、専

門領域に多彩なメニューを揃えています。古くから続いてきた文学、史学、哲学、そして時代を切り開く社会学、教育学、心理学など、13専攻が共存しています。比較文化や地理学といった副専攻もあります。各分野の一流の教授陣は、皆さんとともに学び、さまざまな疑問や問いかけに対しても、よい相談相手になってくれるでしょう。

大学時代は、過ぎてしまうと、あつという間だったように感じられます。何ごとに対しても、失敗を恐れず積極的にチャレンジして下さい。学問の追究とあわせて、文化や運動に係したサークル、NGOのような社会と結びついた活動、国内はもとより海外にまで足を延ばした旅行などもよいでしょう。

皆さんが学生時代を有意義に過ごされ、将来の飛躍につながる充実した成果を得られることを、心からお祈りしています。頑張ってください。